

# 営農情報

## 水田管理のポイント

### 「出穂・開花期～穂揃期」

最も稲が水分を必要とする時期です。

湛水状態にして、稲に十分な水分補給をしましょう（花水）

### 「穂揃期後」

胴割粒や白未熟粒は出穂後の高温により発生しやすくなります。

- ・ 間断かん水で根の活力を維持しながら、水を切らさないようにしましょう。
- ・ 特に高温が続く場合、日中湛水、夜間落水により稲株周辺の温度（特に夜間の温度）を下げ、稲体の消耗を抑えましょう。
- ・ 強風やフェーン現象（高温・乾燥）のときは、一時的に深水にして稲を保護しましょう。

## 斑点米カメムシ類の発生に注意

今年の斑点米カメムシについては、7月19日現在、やや多いとなっています。

薬剤による防除は出穂状況を確認し、穂揃期（8月上旬）及び穂揃期7～10日後（8月中旬）の2回を基本とします。また、8月下旬（8月25日頃）までは斑点米カメムシ被害を防止するため、畦畔の草刈りは行わないようにしましょう。

## 果樹の夏期管理

果樹園の夏期管理は、大切な作業の一つです。園地の明るさや樹勢の強弱を中心に自分の園地を観察して、高品質栽培に向けた管理を実施しましょう。

### ● さくらんぼ

夏場は、来年に向け充実した花芽を形成する大切な時期です。新梢が停止したことを確認し、極端に樹勢が強い樹を中心に夏季剪定を実施しましょう。

明るい園地を作ることは、来年の結実・果実肥大・着色に大きく影響します。暗い園地・枝が込み合っている園地については、大枝の剪定を実施しましょう。また、樹勢が強く、主枝が立っている樹については、誘引を行い、適正な樹体づくりに努めましょう。

### ● りんご・西洋なし

夏期の徒長枝整理は、病虫害防除効果（薬剤散布効果）の向上が期待されるほか、樹勢をコントロールすることができます。

樹勢が強いときは、強い徒長枝を切り、樹勢が弱いときは必要以上に徒長枝整理を行わないようにしましょう。

特に、樹勢が強い樹では、夏から秋にかけて、養分を送るポンプ役の「強い徒長枝」を置いておくと、必要以上に養分が送られて、着色不良や熟度の遅れが懸念されます。樹勢の強弱を判断して徒長枝管理を実施し、高品質生産に努めましょう。

ラ・フランスの徒長枝整理は、更新枝をやや多目に残すことで果実肥大や胴枯病対策も期待されますので、中程度の徒長枝を配置しておきましょう。